

**安全データシート(SDS)**ALPHA'S DL $\alpha$  5W-30**1. 化学品及び会社情報**

製品名	ALPHA'S DL $\alpha$ 5W-30
原料コード	7923
作成日	2016年6月1日
改定日	2021年9月1日
会社情報	
会社	アルファス株式会社
住所	和歌山市岩橋744-2
担当部門	品質管理室
電話	073-473-2217
FAX	073-473-2218
Eメール	tech@alphas-jp.com
推奨用途	4サイクルディーゼルエンジン油

**2. 危険有害性の要約****【GHS分類】**

物理化学的危険性	区分に該当しない
健康に対する有害性	
皮膚感受性	区分1
環境に対する有害性	区分に該当しない

※記載無きGHS分類区分＝該当しない/分類できない。

**【GHSラベル要素】**

絵表示：



注意喚起語：

警告

危険有害性情報：

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

注意書き： 安全対策

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

眼に入れないこと。飲み込まないこと。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

取り扱い後はよく手を洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

眼に入った場合：多量の流水で洗眼し、直ちに医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合：多量の水と石けん（鹸）で洗うこと。

皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

保管 直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管すること。

一度栓を開けた容器は必ず密栓しておくこと。

廃棄 内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則にしたがって廃棄すること。

不明な場合は購入先にご相談の上処理すること。

## 安全データシート(SDS)

ALPHA'S DLα 5W-30

### 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別	： 混合物	
成分及び含有量	： 潤滑油基油	80質量%以上
	： 潤滑油添加剤	20質量%未満

科学特性（化学式）	： 特定できない。
官報公示整理番号（化審法、労働安全衛生法）	： 企業秘密なので記載できない。

危険有害成分	
化学物質管理促進法	： 非該当
労働安全衛生法	： 鉱油（第57条の2 通知対象物）80質量%以上
毒物劇物取締法	： 非該当

### 4. 応急措置

吸入した場合	： 新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 体を毛布等でおおい、保温して安静を保ち、直ちに医師の手当を受ける。 呼吸が止まっている場合及び呼吸が弱い場合は、衣類をゆるめ、呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行う。
皮膚に付着した場合	： 直ちに汚染された衣服を脱ぎ、皮膚を大量の水と石鹸水で洗う。 汚染された衣服を再使用する場合には洗濯する。
眼に入った場合	： 清浄な水で数分間注意深く洗う。 次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。 その後も洗浄を続け、最低15分間洗浄した後、医師の手当を受ける。
飲み込んだ場合	： 無理に吐かせないで、速やかに医師の手当てを受ける。 口の中が汚染されている場合には、水で十分洗う。
最も重要な徴候症状	： 飲み込むと、下痢、嘔吐する可能性がある。眼に入ると炎症を起こす可能性がある。 皮膚に触れると炎症を起こす可能性がある。ミストを吸引すると気分が悪くなる可能性がある。
応急措置をする者の保護	： 現在のところ有用な情報なし。

### 5. 火災時の措置

消火剤	： 霧状の強化液、泡、粉末又は炭酸ガス消火剤が有効である。 初期の火災には、粉末、炭酸ガス消火剤を用いる。 大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。
使ってはならない消火剤	： 棒状の水を用いてはならない。火災を拡大し危険な場合がある。
特有の危険有害性	： 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生する場合がある。
特有の消火方法	： 火元への燃焼源を断つ。 ： 周囲の設備等に散水して冷却する。 ： 火災発生場所周辺の関係者以外の立ち入りを禁止する。
消火を行う者の保護	： 消火作業の際は、風上から行き必ず保護具を着用する。

### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意	： 作業の際には、必ず保護具を着用する。 ： 大量の場合は、漏洩した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。
環境に対する注意事項	： 河川・下水道等に流出し、環境汚染を起こさないよう注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	： 土砂、ウエス等に吸収させ回収し、その後を完全にウエス等で拭き取る。 ： 大量の場合は、土砂等でその流れを止め、安全な場所に導いた後、出来るだけ空容器等に回収する。 海上の場合、オイルフェンスを展開して拡散を防止し、吸収マットなどで吸い取る。 薬剤を用いる場合には国土交通省令・環境省令で定める技術上の基準に適合したものでなければならない。
二次災害の防止策	： 周辺の着火源を取り除く。

## 安全データシート(SDS)

## ALPHA'S DLα 5W-30

: 河川・下水道等に流出し、環境汚染を起こさないよう注意する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

## 取扱い

- 技術的対策
- : 指定数量以上の量を取り扱う場合には、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行うこと。
  - : 炎、火花又は高温体との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発散させないこと。
  - : 静電気対策を行い、作業衣、靴等も導電性の物を用いる。
  - : 容器から取り出す時はポンプなどを使用すること。細管を用いて口で吸い上げてはならない。飲まない。
  - : 皮膚に触れたり、目に入る可能性がある場合は、保護具を着用する。
  - : 粉じん、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

- 注意事項
- : 換気および火気などへの注意が必要である。
- 安全取扱注意事項
- : 『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
- 接触回避
- : ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないよう注意する。
- 衛生対策
- : この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
  - : 取扱い後はよく手を洗うこと。

## 保管

- 安全な保管条件
- : 直射日光を避け、換気の良い場所に保管する。
  - : ゴミ、水分などの混入防止のため使用後は密栓して保管する。
  - : 熱、スパーク、火炎並びに静電気蓄積を避ける。
  - : 危険物の表示をして保管する。
- 安全な容器包装材料
- : 空容器に圧力をかけない。圧力をかけると破裂することがある。
  - : 容器は、溶接、加熱、穴あけ又は切断しない。爆発を伴って残留物が発火することがある。

## 8. 暴露防止及び保護措置

## 管理濃度/許容濃度

化学名	管理濃度	産業衛生学会	ACGIH
鉱油	-	3mg/m <sup>3</sup>	TWA: 5mg/m <sup>3</sup>
潤滑油添加剤	-	-	-

- 設備対策
- : 作業場には適切な全体換気装置、局所排気装置を設置すること。
  - : 取扱い場所の近くに、眼の洗浄及び身体洗浄の為の設備を設置すること。

## 保護具

- 呼吸用保護具
- : 状況に応じて防毒マスク(有機ガス用)等を着用する。
- 手の保護具
- : 状況に応じて耐油性保護手袋等を着用する。
- 眼、顔面の保護具
- : 状況に応じて保護眼鏡等を着用する。
- 皮膚及び身体の保護具
- : 状況に応じて保護衣等を着用する。

特別な注意事項

- : 現在のところ有用な情報なし。

## 9. 物理的及び化学的性質

- 物理的状態
- : 液体
- 色
- : 淡褐色
- 臭い
- : わずかな臭い
- 融点・凝固点(滴点・流動点)
- : -35.0 °C(流動点)
- 沸点、初留点及び沸点範囲
- : 情報なし
- 可燃性
- : 情報なし
- 燃焼又は爆発範囲
- : 1-7vol(推定値)
- 引火点
- : 210 °C(クリーブランド開放式)
- 自然発火点
- : 情報なし
- 分解温度
- : 情報なし
- pH
- : 情報なし
- 動粘性率
- : 51.64 mm<sup>2</sup>/s(40°C)

## 安全データシート(SDS)

ALPHA'S DLα 5W-30

溶解度	: 水 = 不溶
n-オクタノール／水分配係数	: 情報なし
蒸気圧	: 情報なし
密度及び／又は相対密度	: 0.854 g/cm <sup>3</sup> (15°C)
相対ガス密度	: 情報なし
粒子特性	: 情報なし

### 1 0. 安定性及び反応性

反応性	: 通常の使用条件では安定であり、反応する可能性は低い。
化学的安定性	: 通常の保管条件では安定である。
危険有害反応可能性	: 通常の使用条件において危険有害な反応を起こす可能性は低い。
避けるべき条件	: 高熱及び混触危険物質との接触。
混触危険物質	: ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質。
危険有害な分解生成物	: 燃焼の際には一酸化炭素等が発生する可能性がある。

### 1 1. 有害性情報

製品の危険有害性区分については、混合物の分類基準に基づいて分類を実施した。

急性毒性（経口）	: 区分に該当しない ラットLD50 5000mg/kg以上(基油) 混合物については、混合物の分類に基づき、危険有害性の区分を分類した。
急性毒性（経皮）	: 区分に該当しない ラットLD50 5000mg/kg以上(基油) 混合物については、混合物の分類に基づき、危険有害性の区分を分類した。
急性毒性（吸入）	: 分類できない(気体) 分類できない(蒸気) 区分に該当しない(粉塵・ミスト) ラット吸入(ミスト) LC50(4h) 5mg/L以上(基油) 混合物については、混合物の分類に基づき、危険有害性の区分を分類した。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	: 区分に該当しない 基油についての、ウサギによる複数の皮膚刺激試験において、皮膚刺激性に区分する結果は得られていない。 基油について、長期間又は繰り返し接触した場合には、皮膚脱脂による皮膚炎を起こす可能性があるので注意すること 混合物については、混合物の分類に基づき、危険有害性の区分を分類した。
眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性	: 分類できない 基油について、ウサギによる複数の眼刺激試験において、眼刺激性に区分する結果は得られていない。 混合物については、混合物の分類に基づき、危険有害性の区分を分類した。
呼吸器感受性	: 分類できない 基油についての有用な情報なし。 混合物については、混合物の分類に基づき、危険有害性の区分を分類した。
皮膚感受性	: 区分1 基油について、モルモットを用いた複数の試験（ビューラーテスト）において、いずれも感受性なしとの結果が得られている。 混合物については、混合物の分類に基づき、危険有害性の区分を分類した。
生殖細胞変異原性	: 分類できない 基油のAMES試験においてMutagenicityIndex(MI)値が0.0との報告がある。 基油について広範囲な変異原性試験（in vivo及びin vitro）が実施されているが、大部分の結果から変異原性を示す結果は得られておらず、生殖細胞変異原性なしと判断する。 混合物については、混合物の分類に基づき、危険有害性の区分を分類した。
発がん性	: 分類できない IARCでは、高度精製油はグループ3(人に対する発がん性について分類できない)に分類され、ACGIHの提案もほぼ同様の分類と言える。EUによる評価では、発がん性物質としての分類は適用される必要はない。 基油についての各種動物への皮膚暴露試験から得られた知見により発がん性はなしと判断されている。 混合物については、混合物の分類に基づき、危険有害性の区分を分類した。
生殖毒性	: 分類できない 基油について、ラットにおける複数の発育毒性および生殖毒性試験において、発育毒性および生殖毒性を示す結果は得られなかった。

## 安全データシート(SDS)

### ALPHA'S DLα 5W-30

特定標的臓器毒性、 単回ばく露	： 混合物については、混合物の分類に基づき、危険有害性の区分を分類した。 ： 分類できない 基油について、急性試験による各種特定臓器への単回暴露毒性は認められていない。 混合物については、混合物の分類に基づき、危険有害性の区分を分類した。
特定標的臓器毒性、 反復ばく露	： 分類できない 基油について、経皮及び吸入投与による4週間から2年間の反復毒性試験を行ったが、全身に対する影響は確認されなかった。 混合物については、混合物の分類に基づき、危険有害性の区分を分類した。
誤えん有害性	： 区分に該当しない 40°Cの動粘性率が20.5mm <sup>2</sup> /s以下の炭化水素に該当しないため分類されない。 混合物については、混合物の分類に基づき、危険有害性の区分を分類した。
その他の情報	： 混合物については、情報なし

## 1 2. 環境影響情報

生態毒性	
急性毒性	
魚類	： 水にはほとんど溶解しないため、水生生物への汚損を生じる。 魚類（ファットヘッドミノー 96時間） LL50 100mg/L以上(基油) 基油は難水溶性のため、上記試験においては調整されたWAF（水適応性画分）を試料として使用している。 上記試験結果から基油について水生環境急性有害性なしと判断する。 混合物については、混合物の分類に基づき、危険有害性の区分を分類した。
慢性毒性	
魚類	： 水にはほとんど溶解しないため、水生生物への汚損を生じる。 魚類（ファットヘッドミノー 14日間） NOEL 100mg/L以上(基油) 微生物の発光試験（4日間）による発光の抑制は確認されなかった(基油)。 基油は難水溶性のため、上記試験においては調整されたWAF（水適応性画分）を試料として使用している。 上記試験結果から基油について水生環境慢性有害性なしと判断する。 混合物については、混合物の分類に基づき、危険有害性の区分を分類した。
残留性・分解性	： 生分解試験結果は31%(28日間)であることから、本質的生分解性を有するが、易生分解性でないと判断する。(基油)
生体蓄積性	： 情報なし（基油）
土壌中の移動性	： 類似基油のlog KOCは3以上と推測され地表で流出した油は土壌に吸着されることにより地下水へ流出することは考えにくい。(基油)
オゾン層有害性	： 分類できない。
他の有害影響	： 微生物の発光試験（4日間）による発光の抑制は確認されなかった(基油)。

## 1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	： 事業者は残余廃棄物を自ら処理するか又は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者若しくは若しくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。 ： 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 ： 焼却する場合は、安全な場所で、かつ、燃焼又は爆発によって他に危害又は損害を及ぼす恐れのない方法で行うこと。 その燃えがらについては、廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令に定められた基準以下であることを確認しなければならない。
汚染容器及び包装	： 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後、廃棄物処理法及び関連法規ならびに地方自治体の基準に従い処理する。

## 1 4. 輸送上の注意

国連番号	： 情報なし
品名（国連輸送名）	： 情報なし
国連分類	： 情報なし

## 安全データシート(SDS)

ALPHA'S DLα 5W-30

容器等級	: 情報なし
輸送の特定の安全対策及び条件	: 容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬する。 : 引火性液体なので「火気厳禁」。 : 指定数量以上の危険物を車両で運搬する場合は、総務省令で定めるところにより、当該車両に標識を掲げる。 また、この場合、当該危険物に該当する消火設備を備える。運搬時の積み重ね高さは4m以下とする。 : 第一類及び第六類の危険物及び高圧ガスを混載しない。 : その他関係法令の定めるところに従う。
国内規制	
陸上輸送	: 消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法に従う。
海上輸送	: 船舶安全法に定められている運送方法に従う。
航空輸送	: 航空法に定められている運送方法に従う

### 1 5. 適用法令

消防法	: 第四類引火性液体 第四石油類 危険等級III
化学物質把握管理促進法	: 非該当
労働安全衛生法	: 表示対象物(鉱油), 通知対象物(鉱油)
毒劇物取締法	: 非該当
水質汚濁防止法	: 油分排出規制 (5mg/L許容濃度)
下水道法	: 鉱油類排出規制 (5mg/L許容濃度)

### 1 6. その他の情報

参考文献等	: 許容濃度等の勧告(2018)日本産業衛生学会 産業衛生学会誌 米国産業衛生専門家会議(ACGIH) "TLVs and BELs 2010" (2010) International Uniform Chemical Information Database(IUCLID) (2000) ECHA(European Chemicals Agency),website ECHA CHEM ,Information on RegisteredSubstances(2011). IARC suppl.7 (1987) IARC Monographs Programme on the Evaluation of Carcinogenic Risk to Humans(2006) EC理事会指令「67/548/EEC」の付属書I「危険な物質リスト」 WHO/IPCS:「環境保護クライテリア(EHC)」(1982) WHO/IPCS:「ICSCカード(International Chemical Safety Cards)」(2001) 安全衛生情報センター「GHS対応モデルラベル・モデルMSDS情報」 独立行政法人 製品評価技術基盤機構(nite)「GHS関連情報」 日本規格協会(JIS) JISZ7253:2019「GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」 Toxicological Profile for Automotive Gasoline (ATSDR, 1995) PATTY, 5th (2001) Hazardous Substances Data Bank, GASOLINE (2004) 自社製品測定データ、社内情報
-------	--

免責文	: 安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として取扱う事業者者に提供されるものです。取扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って、本データシートそのものは安全の保証書ではありません。
-----	---